



AA 日本ニューズレター

NPO 法人 AA 日本ゼネラルサービスオフィス (JSO)

「はじめまして」

今回新たに JSO の職員に採用されました西村(あるう)です。アルコールクです。

グループは関東甲信越城南地区の東京タワーグループです。自己紹介も兼ねて私と AA との出会い、サービスとの関わりについて書きたいと思います。

私は子供の頃から楽器が好きでした。高校の頃は作曲を勉強し、吹奏楽部で指揮者をしていました。私がやってみたかった職業はなんでもいから音楽に関わる仕事でした。アルバイトで始めたオペラの舞台監督という仕事を10年間くらい続けましたが、最初は楽しく飲めたのですが、35才を過ぎたあたりから飲酒のために毎日会社へ行けなくなり、「自分ひとりで商売したほうがうまくいく(今考えると、本音は好きだけ飲めるわけです)」と考え、人集めをして舞台、マスコミ業界を転々としていました。だんだん景気も悪くなり自分では経営もうまくいかず、お金の管理もできなくなり、ついには社会の中で自分の居場所さえ分からなくなりました。その頃は何が原因かさっぱり理解できず、単に「社会がわるいのだ。」と思い、実家の親兄弟に心配ばかりかけていました。

AA のキャンパスに初めて来たのは病院から紹介された世田谷のあるミーティングでした。今でもよく覚えています。隣の男性は全身震えているし、怖そうなおじさんがなんだか怒鳴っているし...。「こんなところ、毎週通うのは絶対無理！」家族には「なんだか宗教かも知れない。」という悪い印象しかありませんでした。ただひとつ思ったのはその日から数日は飲まないでいられる...不思議な場所だ！ということだけでした。ひとり暮らしもできないほど衰弱して実家に連れ戻されても仕事を探す振りをして、ひとりでゆっくり飲める場所を探してあちこち歩き回りました。ある時は紙包みに缶チューハイを隠して電車の中で飲んだり、駅の個室トイレの中だったり、遊園地の観覧車の中だったり。こんな飲み方をするのは自分ひとりだけだと思い、飲まないではいられない自分を誰かに見られるのが耐えられなく、そういう自分を世界で一番恥ずかしい存在だと思いました。そうすると心の中は自己憐憫と社会に対する恐怖しかありませんでした。「い

ったい私はどうなるのだろう？このままで私の人生は終わってしまうのかな？」「悲しい人生だよなー？」

毎日お酒さえ飲んでいれば少しの間だけ悲しい気持ちを忘れられました。自分ではそんなにお酒をやめる気持ちはなかったのですが、両親が探してきた大阪のあるアルコール専門病院に入院させられました。入院中に主治医からミーティングに行くことを勧められ、行ってみました。ある震災前の神戸のミーティング場が気に入り、毎週通い始めました。AA に対する最初のいやなイメージもなく、ラウンドアップにも連れて行ってもらい、バースデイミーティングではおじさんたちがケーキに火をつけハッピーバースデイを歌ってお祝いしているのにもフレンドリーに感じ、だんだん居心地が良くなって来ました。しかしこの病気の恐ろしさを甘くみていたのでしょう。再就職をし、一人前になったつもりで東京に転職になりました。ミーティングもあんまり行かなくなると半年も経たないうちに飲んでしまいました。今度は会社もクビになり、お金もなくなり、住むところもなくなってしまいました。電話口の向こうで大阪の母は泣いていました。父親は「ガンの手術をして入院しているのに。」と怒っています。ひとりぼっちで病院に入院した自分は、まわりの状況にどこから手をつけていいのかもわからなくなるほど混乱してしまいました。

そんな私に偶然仕事で上京してきた大阪の仲間に東京の仲間を何人か紹介してもらいました。昼間は中間施設に通いながら、AA ミーティングに毎日通いました。ずっと感じていた、「やっぱり東京のAAメンバーはなんて冷たいんだ」と勝手に解釈していたことに気づきました。結局、自分から仲間を遠ざけていたんだな...すべて自分の中の問題だったんだ。後になってからわかりました。もうどうでもいいから AA のことを今までとはまったく違うようにやってみよう。スポンサーもお願いし、ステップをやり、ビッグブックも読み...という気持ちになり、2年間毎日ミーティングに通いました。

グループのサービスも「何で誰も役割をしないんだ。」と思いつつ、以前のように途中で投げ出すこともせず、地区と地域の役割も「何でみんな係りをやらないんだろ。」と心の中では思いつつ、毎年なにかサービスに携わっていました。

私がいつもこのプログラムに来て良かったと思うのは、「何が役割を始めるときには必ず魅力的な仲間と出会う」ことで

す。運が良かったと思います。そう考えると「見えない力」を信じないわけにはいきません。自分なりに理解した神「ハイパーパワー」の存在を信じないわけにはいなくなりました。嫌な事が少なくなり、嫌いな人が少なくなったことです。JSOの募集を知った時も10年勤めた以前の会社がイヤで早くやめたかったわけでは決してありません。以前の自分ならきっとどこへ勤めてもイヤでイヤで仕方なかったと思います。

AA プログラムに来て「自分はなんて幸せだなぁ」と思うことがたくさんありました。以前の会社の上司が「いつでもいいやになったら戻って来れる体制にしておくから...。」と言ってくれたり、送別会を違うメンバーで4回もやってくれたり(立ち飲みおでん屋の時もありましたが...!!)飲んでた頃は誰一人として私の事など信用してくれなかったのに、こんなにたくさんの人たちに愛されるようになったんだと実感し、涙が出そうになりました。そして私はますますAA プログラムを信じることができました。

JSO の先輩スタッフ、アルバイト、ボランティアの方たちもみなさんとても素敵な人たちです。また私は素晴らしい人たちと出会いました。

JSO に勤めたいと思ったのもその思いを一人でも多くの人たちに伝えられたら幸せだと思います。また新しい人生が始まる予感がし、新しい出会いが始まるのかと思うとたくさんの希望があふれてきます。これからたくさんの人たちとお会いできるのを楽しみに、毎日働きたいと思います。東京池袋においての際はぜひJSOにお立ち寄り下さい。

西村

常任理事の役割を終えて

前常任理事会議長 森田

2004年からB類常任理事に就任して四年が経ち、この年末で任期を終えて役割を手放すことになりました。四年間の前半二年は企画と評議会を兼任して担当、後半二年は理事会の議長とJSO担当でした。前任の高橋kさんの方針を引き継ぎ、役割の内容もほぼ同じでした。先行く仲間のサジェスションと、見守ってくれている温かさや信頼の中であつたからこそ、自分のような者でもこの責任の重い役割が続けられたのだと思います。

思い返してみても初めて気がつくのですが、常任理事に就任したばかりのときは、この硬直した古いやり方を変えてやるうとか、いままで整備されていなかった機構を合理的にリストラクションしようとか、たくさん意欲と湧き上がるやる気で満々だったと思います。事実、企画担当や評議会担当として、次から次に発生する問題、そして間をあげずにどんどん迫ってくるイベントの管理に追われ、自分の持っている時間と労力を最大限に振り絞って来ました。自分の行なったことはすべて常任理事会で報告し、必要な経費もほぼ満額認められました。任せてもらえているという安心感が、自分をのびのびと役割に向かわせてくれたのだと思います。とく

に企画担当理事後半の年 2005年の秋、福岡でAA 日本30周年記念集會が行なわれました。全部が全部スムーズに行つたわけではありませんでした。地元九州の仲間の協力と献身に支えられ、このイベントが無事終わったことは自分にとっても大きな財産になったと思います。同時に30周年記念誌発行もできました。前職員だった小宮山さんが退職したあと委員長を引き継ぎ、取材と編集の進行管理を任されました。出版物制作の技術を持った仲間や全地域にお願いした委員の皆さんの協力により、この事業も黒字決済で終えることができたことに感謝しています。

前半の二年間をこうして全力疾走で走り抜けたあと、後半は議長に立候補し了承されました。JSO担当になり心がけたことは、できるだけ職員の皆さんの心情や意図を理解するということでした。ぼくには社会的な顔もあり(専門学校教職員という「仕事」があるわけです)、平日の日中にJSOに常駐することは不可能ですが、それでもハイパーパワーの配慮が働いたのか、理事就任と同時に常勤教員から非常勤講師に身分が変わりました。自分が意図したわけではなかったのですが、週に一回ないし二回はJSOの業務時間中に職員の皆さんと顔を合わせて打ち合わせをすることができるようになったわけです。

この任期中に、金沢さんの採用、城間さんや水谷さんの退職、そして新職員採用の面接などにも関わることになりました。社会では十数年全国一般型労働組合活動を続けてきて、労働者側の権利を守る活動をしてきたのですが、AAでは雇用と経営を円滑に推進していかなければならないということで、戸惑いもありました。しかし、現場の労働者の不満や理不尽さを吸収、解決してきたことが、経営側に立ってみてかなりの部分役に立ったかと思っています。

議長としては、果たして十分な役割ができたのか、胸を張って「できた」とは言い難いのが正直なところです。前半の二年が行け行けドンドンの「攻め」の活動だったとすれば、後半の二年は調整に次ぐ調整、そして頭を下げたり批判を聞いたり、特に理事会内部での時として激しい応酬に耐えて過ごしたのは「守り」の二年間だったと思います。全体を丸く収めるには自我や主張を抑えなくてはならないわけです。外から見て、議長の独断専行と映っているものでも、実は理事や職員で何回も検討し最善策を求めた結論だったということはこの場を借りて伝えたいと思います。自分が地域のメンバーや評議員だったときにも理事会のやっていることは独断に見えましたが、それは氷山の一角しか自分が見ていなかったからだと思っています。

そして最後までWSM 評議員欠員や九州の財務問題、そして職員処遇についてなど問題山積の中、任期終了を迎えてしまうことは大変残念で遺憾に思います。手がけたことや解決待ちのことはすっきりさせてからここをあとにしたのですが、時計は平等に時を刻んでいきます。そしてある程度采配がふるえるようになってきたからこそ、退任の時

期なのかなと思います。

役割で動く範囲が広がると仲間が増えるというのは本当ですね。グループから地区に出たとき、地区から地域に出たとき、評議員になったとき、常任理事になったとき、それぞれ三倍～五倍ずつくらい仲間が増えたように思います。人付き合いが苦手な部屋にこもって酒を飲んでいた14年前からは隔世の感があります。

原点を忘れぬよう、今年からは都内で仲間と新グループを作って、新しい仲間を迎え入れて活動していきたいと思っています。またミーティングで見かけましたらよろしくお願ひします。キヨシ(森田)

ありがとうございました

前広報・病院施設担当理事 原田

四年のB類常任理事任期を終えたわけですけど、何も為しえなかったというより、何もしなかったというのが正直なところで、皆さん方に迷惑をかけたという気持ちだけが残っており、申し訳なく思っています。

アルコール中毒という病気をもって生まれ、ソコソコのどん底からAAに救われたのは、今から二十年前でした。

わたしの飲酒は犯罪に繋がっていくというものでAAの仲間メッセージをとどけてもらった時も、犯罪を犯して措置入院をしていた時でした。私は、AAの仲間の正直な話に感動を覚え、「この人たちと一緒にやっていけば生きていける」とも感じました。そして今も生きています。おまけに飲まないで。

私がどうしてサービスといわれるものに関わっていく気持ちになったのかはわかりませんが、それらを理解していたわけでもありません。ただ、小心者で内向的で、疑い深い私は自分の生きていく場所なのだからもっとよく知っていきたい、というのが心の中にあったのだと思います。

当時は、全体を七つの地域に割り、各地域に一つの「セントラル・オフィス」を設置し、全体サービス体制の確立をしていこうという流れの中にあり、仕方や仕組みの自由な言い争い(議論)を聞いていたり、また自分も加わっていくことをしました。そのような中で、新しいものが形づくられていくことに、生まれてこの方体験したことのない生命の躍動感を感じました。

刹那的な欲望を果たすことと、飲んで犯罪を犯すことにしか能のなかった私には、画期的な「私の新しい生き方」であり、初めて真の欲に目覚めたのだと思います。

ともすれば「これが正しい」と主張して止らない性癖を私は持っていますが、AAが「今苦しんでいるアルコール」に提供するものは、飲まないで生きる「新しい生き方」であり、正しい生き方でないことを、多くの仲間の中で気づかせてもらいました。そしてそれは地域社会で実際の生き方として役立つことでもありました。

口幅ったくて申し訳ありませんが、最後に自分の思いを二

つばかり述べさせていただきます。

「一人のアルコールがもう一人のアルコールの手助けをする」

一年に一人が助ければ、一年後に日本のAAは今のメンバーの倍のメンバー数になっていきます。1+1は2で極めて単純で簡単です。でも現状は四、五人で病院メッセージに行っても一人も助からない、という話も聞きますし、メッセージに行くメンバーも限られているということです。

乱暴な言い方をすれば、集団で行く「学習的メッセージ」はホドホドにして、AAメンバーひとり一人が、もう一人のアルコールにメッセージを運び、手助けすることに力を注いでみてもいいのではないかと言うことです。それらのサービスを可能にする、仕方や、仕組み、道具などを、AA全体で考えても神様は怒らないと思うのですが。

四年前、同じこの「AA日本ニューズレター」で就任の挨拶をさせてもらいました。当時の評議会には「矯正施設」で活動している地域の情報を提供する時間も場所もなく、よしんば分科会で話題になっても少ない時間で、全体会議での議論はありませんでした。私が挨拶とともに紙面を借りた希望は、将来評議会のテーブルで他の委員会と同じ時間をかけて話されていくことでした。

本年度から常任理事会が一つの局として矯正施設委員会をもたれました。担当されるのはHさんです。さらに活性化されていくこの分野で全国のメンバーが分かち合ってくれることを願っています。

感謝とともにお礼申し上げます。有り難うございました。

AAギャップレスグループ 新作

仲間から仲間へ

前企画担当理事 小泉

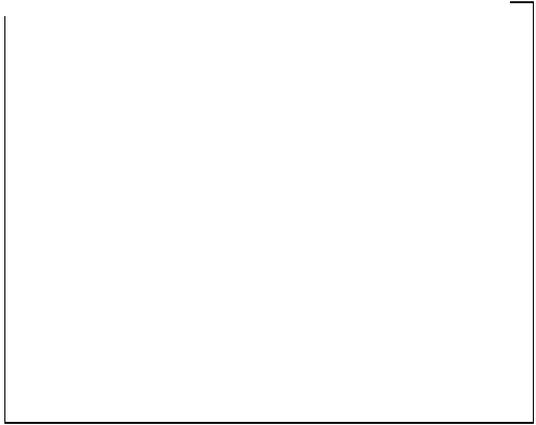
任期中の理事の退任で、3年前の4月に補充選挙で理事に選出されました。最初の年は財務担当でこの2年間は企画担当理事をやらせていただきました。評議員を終えて7年以上も全国レベルのサービスを経験してないブランクのためか、最後まで、ただ流れのなかで理事を務めてきたような気がします。現在、進行形である企画担当の案件を書かせていただきます。

サービスガイドの改訂

第9回全国評議会からの勧告決議と「制度改革小委員会」の提案を受けての改訂でした。私の考えは改訂ではなく、わざわざ小委員会を立ち上げるのだから、これまで30年間の日本で育ったAAを盛り込んだ「AA日本サービスマニュアル」を作るべきというものです。評議会勧告の拘束力を意識しての小委員会のスタートでした。昨年の活動は、全グループへのアンケートの実施と、WSM評議員に依頼して各国サービスマニュアルを集め、それを翻訳した

o

|



|

|

